

# ECONOMY TOPICS

## 経済トピックス

2016.6.10

No.439



### 平成 28 年夏のボーナス調査

#### —レポートの概要—

平成 28 年夏のボーナス受給見込額は、平均で昨年夏実績と同額の 34 万 4 千円となった。一方、ボーナスの希望額は平均で 47 万 1 千円となった。今夏のボーナスの伸び（見込み）は、昨年夏に比べ、「良くなる」割合が 1.6 ポイント減少、「悪くなる」が 0.4 ポイント減少し、期待指数は 0.6 ポイント低下の 48.5 となった。

ボーナスの使途計画は、「消費」割合が 40.4%、「貯蓄」割合が 43.9%、「返済」割合が 15.7%となった。昨年夏に比べ「消費」割合が増加し、「貯蓄」、「返済」割合は減少した。

「貯蓄」の目的をみると、昨年、一昨年夏と同様、上位 3 位は「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」、「老後の備え」、「教育」の順となった。

最近の暮らし向き調査では、27 年冬に比べ「良くなった」とする割合が 0.9 ポイント減少、「悪くなった」とする割合は 0.8 ポイント減少した。この結果、暮らし向き指数は 0.1 ポイント低下し 45.5 となった。

# 1. 平成28年夏のボーナス調査

## (1) ボーナス支給見込額

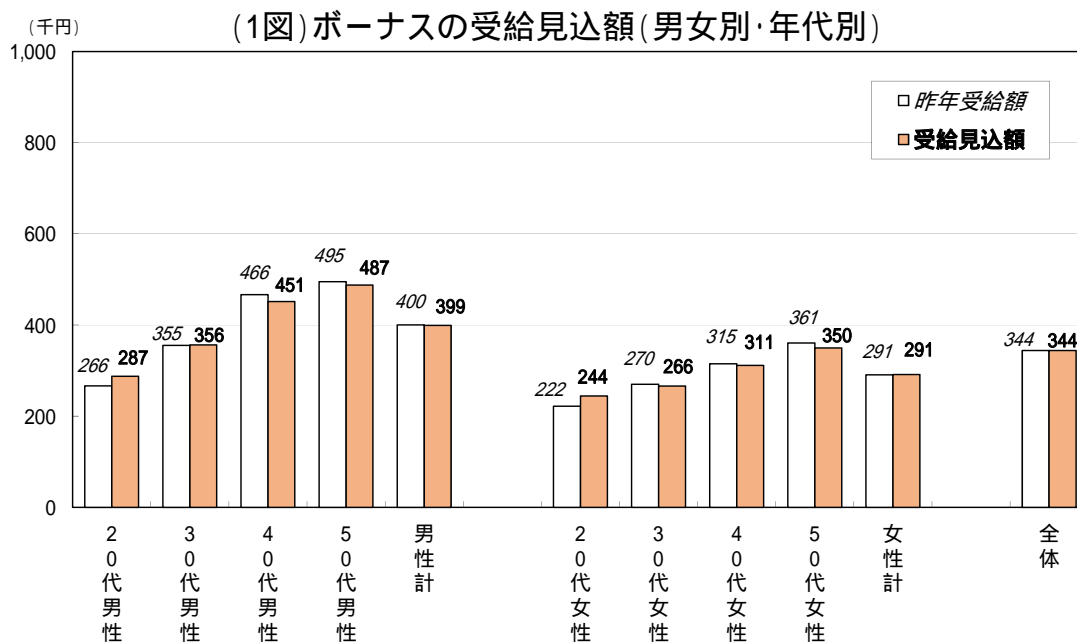
平均 34 万 4 千円、昨年夏の実績と同額

県内給与所得者に昨年夏のボーナス支給額と今夏のボーナス支給見込額を尋ねたところ、支給見込額は平均で 34 万 4 千円となり、昨年夏の支給実績と同額となった。これを男女別・年代別にみると、最も見込額が多かったのは 50 代男性の 48 万 7 千円で、次いで 40 代男性の 45 万 1 千円、30 代男性の 35 万 6 千円、50 代女性の 35 万円などの順となった。

男女別の平均支給見込額を比較すると、男性が 39 万 9 千円、女性は 29 万 1 千円と、男性が女性を 10 万 8 千円上回った。

年代別に今夏の支給見込額と昨年夏の支給実績との開きをみると、20 代、30 代男性と 20 代女性は見込額が支給実績を上回った。一方、40 代、50 代男性と 30 代以上の女性では下回る見込みとなっている。その差額をみると、20 代男性(2 万 1 千円上回る)、20 代女性(2 万 2 千円上回る)が 2 万円以上の開きとなったが、今回調査は全体的に小幅な開きにとどまった。

(以上、1 図参照)



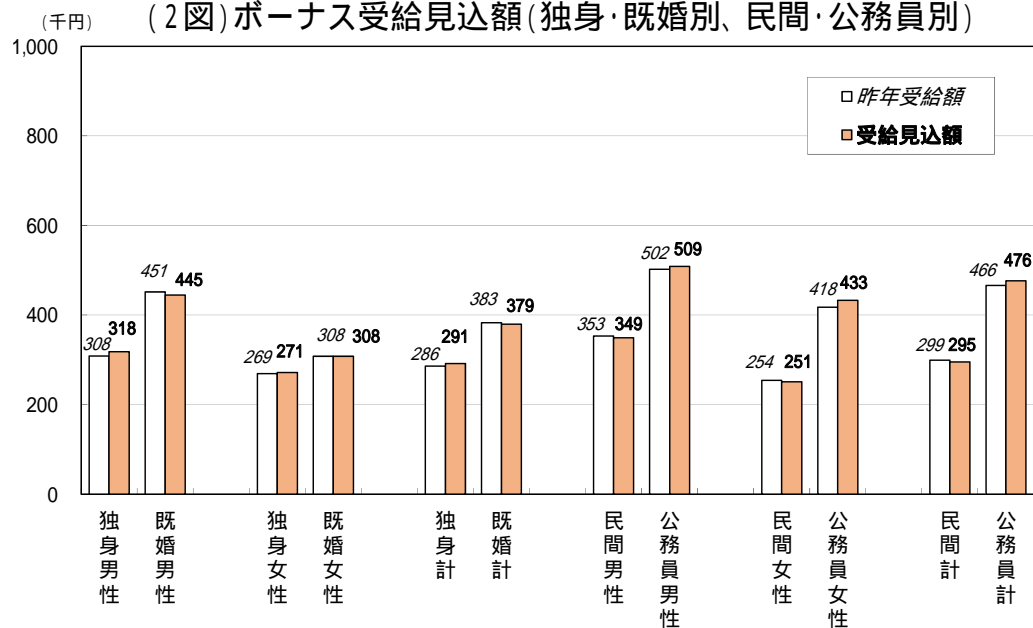
20代は20歳未満、50代は60歳以上を含む、以下同様

次に、平均受給見込額を独身・既婚別にみると、独身者が29万1千円、既婚者が37万9千円となった。昨年夏の受給実績と比べると、独身者が5千円上回り、既婚者は4千円下回ると見込んでいる。独身者は男性の見込額が受給実績を1万円、女性は2千円上回った。一方、既婚者は男性が6千円下回り、女性は同額となった。

民間・公務員別でみると、民間が29万5千円、公務員が47万6千円となった。昨年夏の受給実績と比べると民間が4千円下回り、公務員は1万円上回ると見込んでいる。男性は民間が4千円下回り、公務員は7千円上回った。一方、女性は民間が3千円下回り、公務員は1万5千円上回った。

(以上、2図参照)

(2図) ボーナス受給見込額(独身・既婚別、民間・公務員別)



## (2) ボーナスの希望額

ボーナス希望額、平均47万1千円

今夏のボーナス希望額は全体の平均で47万1千円となり、受給見込額34万4千円と12万7千円の開きがみられた。

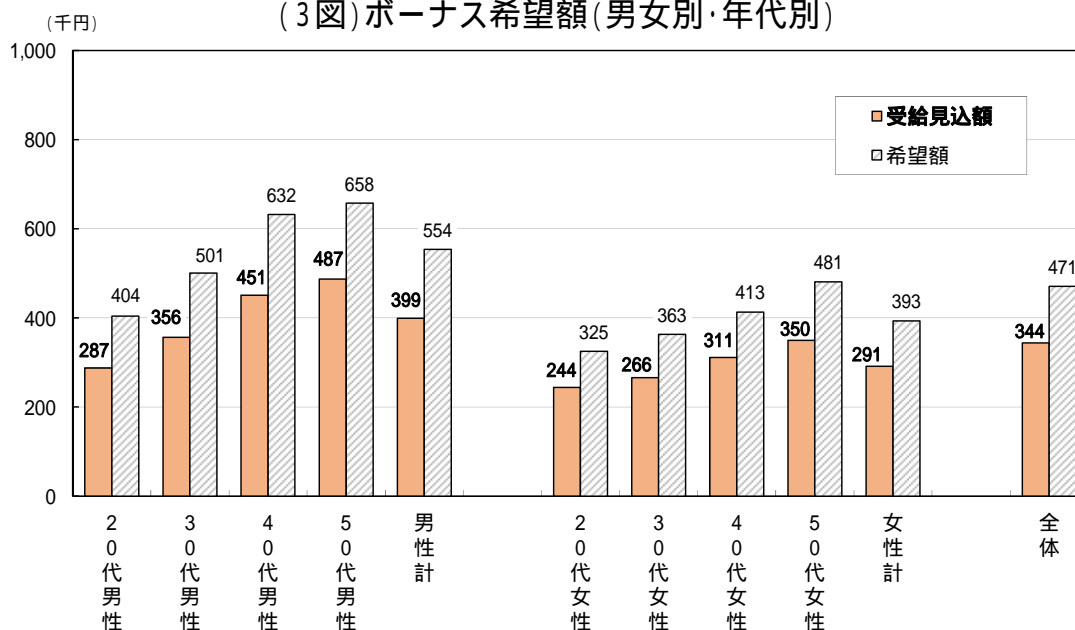
平均希望額を男女別・年代別にみると、男性が55万4千円、女性は39万3千円となった。最も多かったのは50代男性の65万8千円で、次いで40代男性の63万2千円、30代男性の50万1千円、50代女性の48万1千円などの順となった。

希望額と受給見込額との開きを男女別にみると、男性が15万5千円、女性は10万2千円となった。各年代とも男性は女性よりも開きが大きかった。

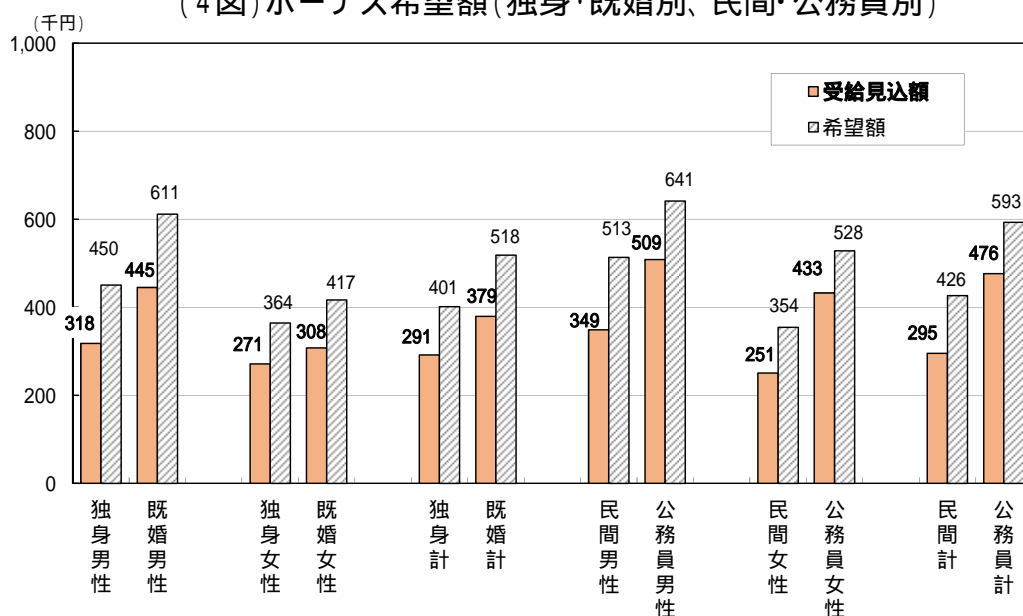
また、独身・既婚別にみると、男女とも既婚者は独身者に比べ開きが大きかった。民間・公務員別では民間が公務員に比べ開きが大きかった。

(以上、3、4図参照)

(3図) ボーナス希望額(男女別・年代別)



(4図) ボーナス希望額(独身・既婚別、民間・公務員別)



### (3) ボーナスの伸びについて

期待指数 48.5、昨年夏に比べ幾分低下

今夏のボーナスの伸びは昨年夏に比べてどうなるかについて、「良くなる」、「変わらない」、「悪くなる」の三つの選択肢で回答してもらった。ボーナスの伸びが「良くなる」との回答は全体の8.5%、「悪

くなる」が11.5%、「変わらない」が80.0%となった。この結果、ボーナスの伸びに対する期待指数(5図、注記参照)は48.5となった。

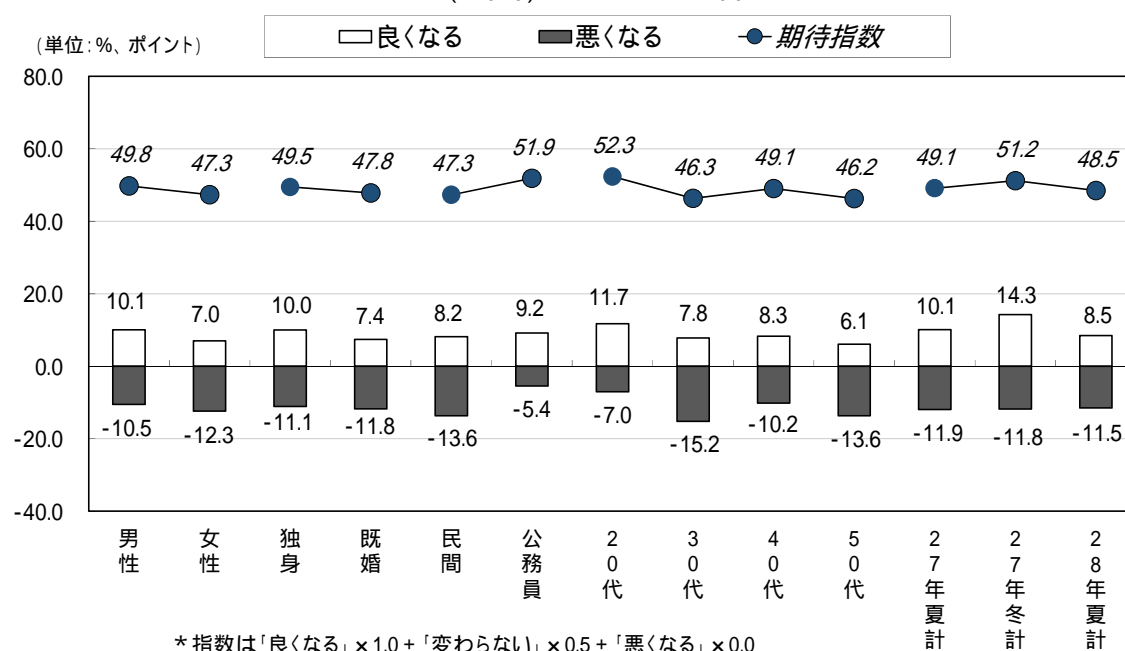
昨年夏に比べ、「良くなる」が1.6ポイ

ント減少、「悪くなる」が0.4ポイント減少し、期待指数は0.6ポイント低下した。また、昨年冬に比べ、期待指数は2.7ポイント低下した。

属性別にみると、20代で「良くなる」の割合が「悪くなる」を上回ったものの、他の属性では下回った。

(以上、5図参照)

(5図) ボーナスの伸び



#### (4) ボーナスの使途計画

「消費」割合が増加、「貯蓄」、「返済」割合は減少

この夏のボーナスの使途計画は、「消費」割合が40.4%、「貯蓄」割合が43.9%、「返済」割合が15.7%となった。昨年夏に比べると、「消費」割合が3.1ポイント増加し、「貯蓄」割合は2.3ポイント減少、「返済」割合は0.8ポイント減少した。

男女別にみると、女性が「消費」、「貯蓄」割合、男性は「返済」割合が高かつ

た。独身・既婚別でみると、独身者が「消費」割合、既婚者は「返済」割合が高かった。民間・公務員別では民間が「消費」割合、公務員は「返済」割合が高かった。また、今回調査では全体に「消費」割合でばらつきがみられた。

(以上、1表参照)

(1表) ボーナスの使途計画

(単位:%)

	消費割合				貯蓄割合	返済割合				
	買い物	レジャー	交際費	その他		自動車	住宅	その他		
男性	38.6	16.3	8.4	5.5	8.4	42.5	18.9	5.8	7.8	5.3
女性	42.0	17.1	9.0	6.4	9.5	45.3	12.7	4.5	4.0	4.2
独身者	43.5	19.3	8.1	8.6	7.5	44.4	12.1	6.4	1.8	3.9
既婚者	38.2	15.0	9.1	4.2	9.9	43.7	18.1	4.2	8.6	5.3
民間	41.8	17.4	9.0	5.9	9.5	43.9	14.3	4.9	5.2	4.2
公務員	36.4	14.9	7.9	5.9	7.7	44.0	19.6	5.6	7.7	6.3
28年夏計	40.4	16.7	8.7	5.9	9.1	43.9	15.7	5.1	5.8	4.8
27年夏計	37.3	15.6	8.6	4.9	8.2	46.2	16.5	4.2	7.0	5.3
26年夏計	40.0	16.8	8.6	5.4	9.3	43.7	16.3	4.2	6.5	5.5

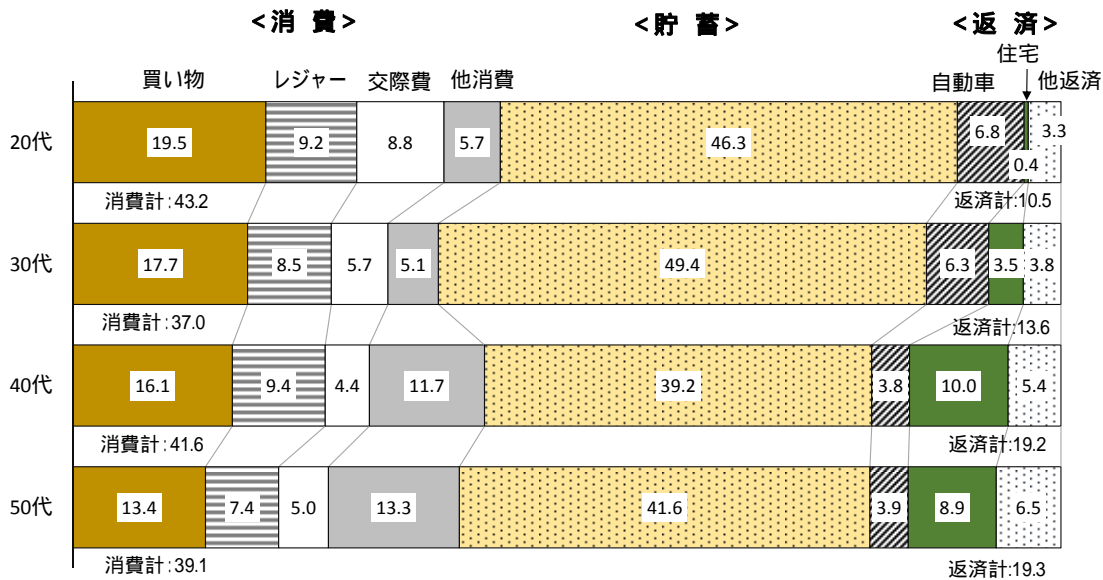
年代別にみると、「消費」割合は 20 代が 43.2%で最も高く、最も低い 30 代の 37.0%とは 6.2 ポイントの開きがみられた。「貯蓄」割合は 30 代が 49.4%で最も高かった。「返済」割合は年代が進むにつ

れて高くなり、50 代は 19.3%となった。「返済」の内訳をみると、20 代では自動車ローンの割合が、40 代、50 代では住宅ローンの割合が高くなっている。

(以上、6 図参照)

(6 図) 年代別ボーナスの使途計画

(単位:%)

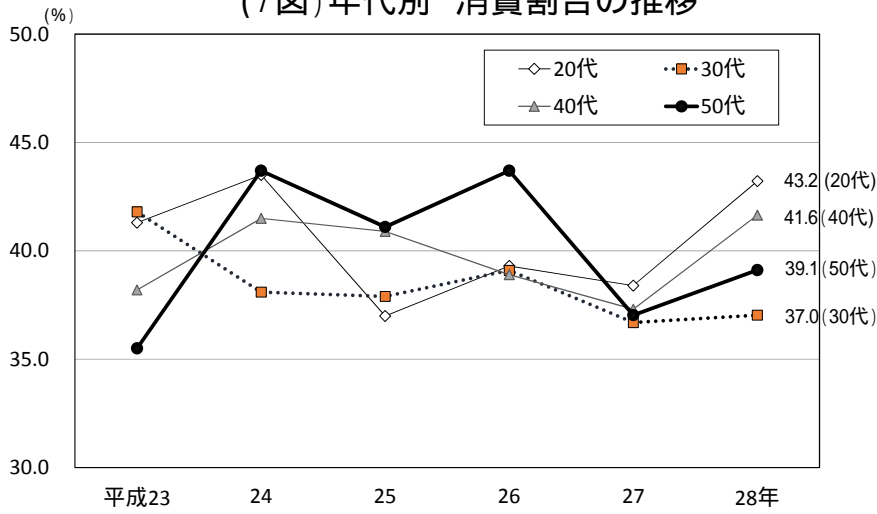


夏のボーナスの使途計画についてそれぞれの割合の推移を年代別にみると、平成 28 年の「消費」割合は昨年夏に比べ各年代とも増加し、20 代、40 代で大幅な増加がみられた。「貯蓄」割合は昨年夏

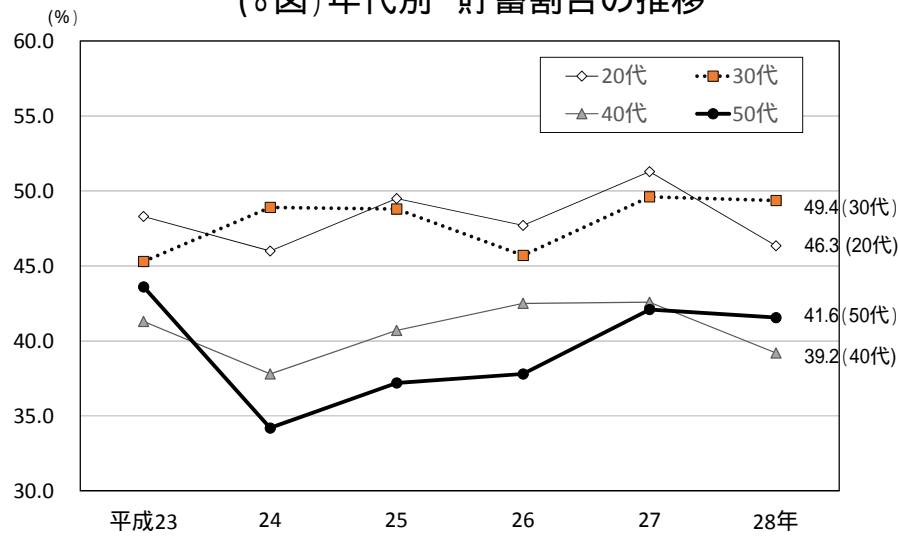
に比べ 20 代、40 代で減少し、30 代、50 代はほぼ横ばいとなった。「返済」割合は全体に大きな変化はみられなかった。

(以上、7、8、9 図参照)

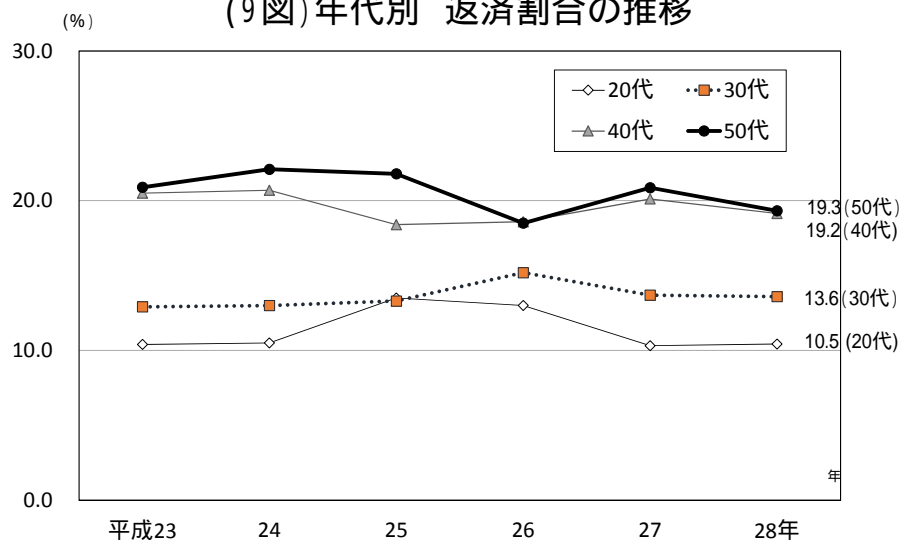
(7図) 年代別 消費割合の推移



(8図) 年代別 貯蓄割合の推移



(9図) 年代別 返済割合の推移



## (5) 貯蓄の目的

「貯蓄していれば安心だから」、「老後の備え」、「教育」が上位3位

貯蓄の目的(複数回答)は、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が40.3%で最も高く、以下「老後の備え」が35.9%、「教育」が28.1%などと続いた。昨年、一昨年夏と同様、この3項目が上位3位を占め、順位も同じであった。「安心だから」が昨年夏に比べ3.0ポイント増加し、「老後の備え」は0.3ポイント、「教育」は2.7ポイントそれぞれ減少した。また、「旅行」は3.2ポイント減少した。

男女別にみると、男性は「安心だから」の割合が女性を9.3ポイント上回ったほ

か、「住宅」、「耐久消費財」の割合が女性に比べ高かった。一方、女性は「老後の備え」がトップとなった。また、「旅行」が男性を12.5ポイント上回った。

独身・既婚別では、独身者は「安心だから」の割合が5割を超えたほか、「旅行」が3位となった。一方、既婚者は「老後の備え」が1位、「教育」が2位となった。また、「安心だから」は3割にとどまり、独身に比べ貯蓄の目的が全体的に明確であった。(以上、2表参照)

(2表)貯蓄の目的(複数回答)

(単位:%)

	男性	女性	独身	既婚	28年夏計	27年夏計	26年夏計
住 宅	16.1	12.4	8.4	18.2	14.2	13.3	14.8
教 育	(3) 28.7	(3) 27.4	7.7	(2) 42.2	(3) 28.1	(3) 30.8	(3) 31.7
結 婚	8.2	9.1	20.1	0.7	8.7	8.4	9.7
旅 行	14.4	26.9	(3) 24.5	18.2	20.8	24.0	22.2
耐久性消費財	12.4	9.4	10.4	11.2	10.9	12.3	11.2
病気の備え	12.4	12.6	12.1	12.8	12.5	13.6	12.9
老後の備え	(2) 34.6	(1) 37.1	(2) 25.5	(1) 43.1	(2) 35.9	(2) 36.2	(2) 35.6
安心だから	(1) 45.1	(2) 35.8	(1) 54.4	(3) 30.5	(1) 40.3	(1) 37.3	(1) 39.8

## 2. 最近の暮らし向き調査

暮らし向き指数、昨年冬に比べ0.1ポイント低下

まず、「昨年の今頃に比べ、最近の暮らし向きはいかがですか」と尋ねたところ、「良くなった」とする回答が27年冬に比べ0.9ポイント減少の5.7%、「悪くなった」は0.8ポイント減少の14.7%、「変わらない」が1.7ポイント増加の79.6%となった。この結果、「現在の暮らし向き

指数」(3表、注記参照)は45.5と、27年冬に比べ0.1ポイント低下した。

「暮らし向き指数は9期(半期毎)連続で40.0を超えた。「良くなった」の割合が6%前後にとどまっているものの、「悪くなった」はこのところ減少が続いている。全体としては暮らし向きの上向き感



には欠けるものの、悪化には底打ちの傾向がみられる。

男女別、年代別など各属性をみると、「良くなった」の割合が「悪くなった」を上回ったのは20代のみである。30代以上や男女別など他の全ての属性では「悪くなった」が「良くなった」を上回っており、女性、既婚者、民間、30代以上はやや高めの割合である。

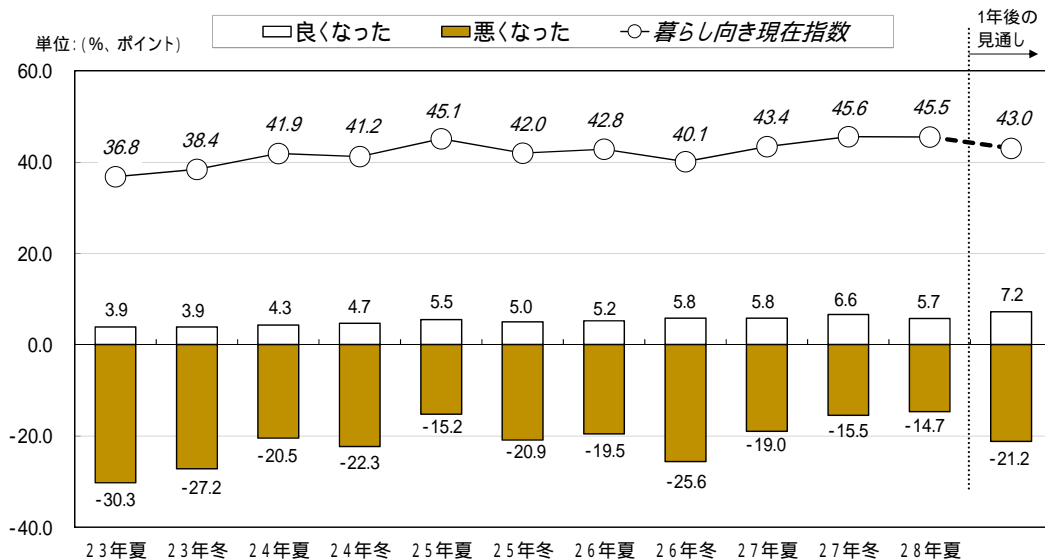
次に「1年後の暮らし向きはどうか」との問いに対しては、「今

後良くなる」が7.2%、「今後悪くなる」が21.2%、「変わらない」が71.6%となった。

「良くなる」は50代以外の全ての属性で増加がみられ、全体では現在より1.5ポイント増加する見通しとなっている。一方、「悪くなる」は全ての属性で増加し、全体では現在より5.5ポイント増加となった。この結果、「今後の暮らし向き指数」は「現在指数」を2.5ポイント下回る43.0と、幾分低下する見通しとなっている。

(以上、10図、3表参照)

(10図) 暮らし向き指数の推移



(3表) 現在の暮らし向きについての見方(属性)

(単位: %, ポイント)

	現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後	
	良くなった	良くなる	変わらない	変わらない	悪くなった	悪くなる	指数	指数
男性	6.1	8.6	81.5	71.3	12.4	20.1	46.8	44.2
女性	5.4	6.0	77.9	71.8	16.7	22.1	44.4	42.0
独身	7.4	10.0	80.2	75.5	12.4	14.5	47.5	47.8
既婚	4.6	5.4	79.1	68.9	16.2	25.7	44.2	39.8
民間	5.6	7.5	78.7	70.2	15.7	22.3	45.0	42.6
公務員	6.1	6.5	82.1	75.3	11.8	18.2	47.2	44.1
20代	9.9	14.8	83.3	76.7	6.8	8.5	51.6	53.1
30代	8.6	9.0	76.4	69.5	15.0	21.5	46.8	43.8
40代	2.2	3.0	79.9	77.4	17.9	19.5	42.2	41.7
50代	2.8	2.8	78.8	61.3	18.4	35.9	42.2	33.4
全体	5.7	7.2	79.6	71.6	14.7	21.2	45.5	43.0

注) 現在指数 = 「良くなった」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなった」×0.0  
 今後指数 = 「良くなる」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなる」×0.0

以上

【調査要領】

調査対象者 県内在住の男女給与所得者  
調査時期 平成 28 年 5 月中旬～5 月下旬  
配布・回収枚数 配布枚数 1,000 枚  
回収枚数 946 枚（回収率 94.6%）

回答者内訳

(単位:人)

属性	男性	女性	合計
20代	99	126	225
30代	105	129	234
40代	119	151	270
50代	121	96	217
独身	156	227	383
既婚	288	275	563
民間企業	308	391	699
公務員	136	111	247
合計	444	502	946

注:20代は20歳未満、50代は60歳以上を含む

本件に関する照会先

一般財団法人 青森地域社会研究所  
担当：主任研究員 野里和廣  
TEL.017-777-1511